

刊夕 日一月十

常磐每日新聞

定価一圓五角 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
電話 六三〇〇
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

書齋淨土

眞繼 雲山

如何な千萬長者も、金はモウ澤山だ、そんなには入らぬ助けてくれと叫んだ話は聞かぬ。

あべこべに灰吹きと何とやらは溜るほど穢ないといふから金持の財布は底なし井戸である、金持の財布ですに然り、私の財布が年中缺員つゞきで生を替ふるとも満員になる見込みなきこと怪しむに足らぬが、その代り一人に一福田はあるもので、私の書齋には佛教書籍だけがどうやら満員になつた。

大震災前にも佛書を山積して只ひとりほくそ笑み、一生かゝつてこれを讀破しやう様と願を撫でてゐるうちに大震災でフイになつたが、それから足かけ七年後の今日又しても讀み切れぬほどの佛書の山が出来た。たとへ讀み切れないにしても紅塵の巷でクシャ／＼になつた頭を抱へて書齋に入り、雑然たる佛書の中央に端座してみると、へたな藝者に取り巻かれるよりは爽然たるを覚える、巻を開けば三國の高僧紙上に活現し、眼を閉れば三千年の論叢紙背に映發する、それ

は正しく私に取つての書齋淨土である。

たゞ困つたことには肝腎の讀むヒマがない、こゝ五十年はおろか一生かゝつても恐らく讀破されそうにはない、昔の高僧碩學が、その修行時代に一切を讀破すること何回などと書いてあるのは、アレは米代も家賃も心配のなかつた時代

黒くなつた銅薬罐はレモン汁を浸した布に鹽を付けて磨くこと

の昔噺であらう。現代人は食うてゆくだけが精一ぱいで、なか／＼一切經どころではないのだ、

私の世壽を相場並に五十年とすれば残り甚だ少なく『人生僅か六十年……三十年は寝てくらすウツ』と浪花節の文句を改正しても矢張り佛書が餘つて壽命が足らぬ。

二明日の献立

(朝)せん大根のみそ汁
(晝)わさび合せ醬油
(晩)人參、焼ぐり、里芋ごまあへ

尤も淨土は觀照すべきもので、觀照することが即得往生なのであるから、藝者や洋食のやうに必ずしもつまんだり食うたりするには

當らぬ。私は今更ら手さぐりに淨土を求めてゐるのでなく淨土觀照の至樂を書中に求めてゐるのである。

笑話

保存法全備 夫「何時見てもあの奥さんは若々しいね、まつたく」 妻(イラ／＼して)「あのひとは毎晩冷蔵庫の中に寝るんですつてサ」



常磐歌壇

天神敏子

初産の卵を見るが樂みと餌をとらせつゝ母ののたまふ 兩具持つこと厭ひてた生徒らは遠出の路を濡すぶれ來ぬ

羽持 繁

あを向けに疊にまろび秋空に浮きて動かぬ鱗雲をみる 寝過ぎが習慣となりて新聞は夜見ること、ひとり定まる

上野孤舟

しずかなる山路を下るたそがれに山鳥の聲谷にこたます ひとすちに煙りたなびく炭焼山の麓の秋はさびしく

季節御料理

鳥 松茸 よせなべ 井類種
右大々勉強 出前迅速
◎滋養豊富! 風味美味!
是非一度御試食を……
大蒲焼・鳥料理
壽司・折詰仕出し
田町(電話四二四番)

魚榮

夏期中臨時大特賣トシテ御願申シマシタ石炭モ御蔭様デ全部ヲ賣リ盡シマシタ就キマシテハ從來ノ石炭ヲ御願ヒスル事ニナリマシタカラ不相變御引立ノ程偏ニ御願申シマス

●正味十貫目 金三十拾錢

御注文ハ

電話三七番

阿部石炭商店

△配達ハ一俵ヨリ致シマス

イヤ! 君!
いゝ冬服を求めたね
断然三二年型だよ
いやコレカネ!
例の……「ソレ」



平新川町四丁目停車場通電六三

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎
内臓外科 醫學士 内木宗八
泌尿器科

CAFE SEKAI

カサノ音界

紅、そして青の灯の下に 美女のくむ緑酒を知る御身よ さらば來り召せ 吾が世界のハレムへ。

六四

外科

X光線科
性病科
外科

入院隨意

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

内科 一般

平町新川端(釜屋新宅向)
醫學博士 難波 睦
電話五〇二番

就職口

平商早くも

斡旋の運動

平商業學校にては此程來年度卒業生四十名の志望別を調査した處、自家營業十八名、銀行會社十三名、進學五名、其他四名であつたが最近財界も幾分好轉の徴が見えるので此際卒業生の就職に行詰りを來さぬ様早くも附近の各炭礦會社を始め遠く縣外及び東京方面に向つて就職口開拓の運動を開始した

依然上昇氣配

昨日の四倉藪市況

昨日の出荷多く白蠟千三百六十八貫に及び最高六十二圓、最低四十八圓二十錢、馴五十五圓二十錢を告げ馴相場では前日より一圓八十錢の高値を見たが一方開場二日廿九日の植田市場は荷薄の二百二十三貫で最高五十八圓、最低五十五圓、馴五十五圓五十錢の高値である

天候が恢復して

けふから出漁

秋刀魚漁場遠く

今のは汽車廻り

灘引開始さる

石城郡各濱の近海漁場は最近の降雨続きで休止の姿であつたが本日漸く天候が回復したので近海灘引漁業も開始されいづれも出漁した

釜石沖合に漁場がある關係

柔道を猛練習 磐城

中學校及び平商柔道部にて

は例年の通り今月中旬磐城炭礦主催の柔道大會に出場優勝すべく目下係教諭指導の下に猛練習中

磐中對入山

明日試合

磐城中學校對入山炭礦の野球試合は明日午後一時より磐中グラウンドに於て舉行すると

青年講座

講師が決定

既報縣主催の青年講座は十一月十五日(勿來校)十六日(植田校)十七日(小名濱校)十八日(平第三校)十九日(四倉校)等に於いて開催されるが講師は社會教育指導員佐藤弘毅氏と決定した由である

應援團の歡呼裡に

けふ代表選手出發

青年團對抗體育大會へ

既報石城聯合青年團代表選手十九名は明日福島市に開催される縣下各青年團對抗體育大會に出場の爲め今朝平驛發八時五十分にて團長

平町の失業登録者

合計二百九十二名

締切つても未だ押寄せ

昨報昨日を以つて締切つた平職業紹介所の失業労働者登録は豫定人員を突破して男二百三十七名、女五十五名、計二百九十二名に達し締切後の本日に至つても未だ登録せんとする者が續々來所すると

磐陽野球リーグ

無期延期と決定

一ツ戦は磐中グラウンドに他の催し繼續し平商グラウンドは目下修理中にて兩グラウンド共に使用が出来ないため無期延期する事になつた

盛岡高等農林生徒

本郡砂防工事視察

三浦博士引卒本日來平

盛岡高等農林學校生徒十三名は同校教授三浦博士引卒のもとに本日午後八時四十分平着列車にて來平大村屋旅館に一泊明日は平窪村字上平窪地内及び下小川村字關場等の縣營砂防工事見学を行ふ事となつたが縣よりは藤吉技師が案内役として出張した

庭球競技を

磐女が運動

縣下女子中等學校體育大會は從來各種目共に一ヶ所で開催されたが來年度よりは男子中等學校體育大會同様各競技別に各所に分割開催される事に内定したので磐城高等女學校ではせめて庭球大會だけでも自校コートに於て開催し度いと運動を開始した

平百面鏡

編物相談

毛糸の需要期に入り品物を豊富に取揃へた田町ハンモトヤ毛糸店では唯賣ればよいといふ方針許りでなく一々お客様の編物に付いて親切談に應ずるので評判が好いが本年も例年の通り

ギバ太陽燈

宮川美髮館取付

常に理髮界の尖端を行きメダンで明るく平驛前宮川美髮館では此程ギバ太陽燈を取付け獨特の美顔術と紫外光線照射をサービスマス事になつたので人氣が良

原齒科出張所

土橋通り原齒科醫院にては赤井小川方面の望みに依りけふから小川郷驛前鶴屋旅館に出張所を設け隔晩毎に院長原精一氏が出張診療に従事すると

平町人事

△長橋町四二 寒風澤國治 氏二男庄二

△古鍛冶町一四 當時東京府豊多摩郡中野町三ノ九 本田方忠次郎長女満山泰子

△町町六 當時宮城縣刈田郡白石町字澤端六 川三代吉(八二)

一冊の代金で 御希望通りな

五冊の雑誌が 自由に讀める

川崎 文庫

電六三〇番

(申込次第規則書進呈)

平町二丁目

三井タクシ

電話 八六五番

御料 鹽 豚

田町 三三三 屋

電話 三三三番

片足を無くして失業

一家六名路頭に迷ふ

會社に泣きついて断られ

涙ながらに人事相談所へ

石城郡内郷村磐城炭礦小野田坑の元坑夫蛭田正壽(三三)は本年二月十八日同坑内で作業中落盤の爲め左足に重傷を受け炭礦病院にて左足を切斷した爲め其後失業したが最近傷口が痛み出したので再び會社へ治療方を願つた處断られたが一家五名の者を抱へて生活苦に追はれる始末に本日平署人事相談所に會社へ交渉して欲しいと願出た

運動會の準備

高等女學校にては本日午後二時より職員會議を開き來る十七日開催する秋季運動會のプログラム及び役員等を決定した

高久青訓遠足

郡高久村青年訓練所生徒は明日午前六時同村小學校に集合豊間、江名方面に遠足運動會を行ふと

金成氏の當選を

壽く昨日の盛況

菊田座立錐の餘地なし

更らに來八日聚樂館で

議會報告を併せて

初めて濱通りより貴族院議員を選出した地元郡南の喜び一方ならず昨日午後一時半より植田町菊田座に開催された

金成通氏の當選祝賀

會は満場立錐の餘地なき盛況。先づ前縣議古川傳一氏の開會の辭に始まり前代議士木村清治、代議士鈴木辰三郎兩氏の懇篤なる祝辭演説あつて榮譽に輝く金成通氏が壇上に現るゝや

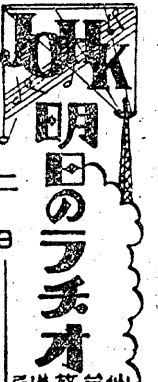
五百頭に近い

郡内の豚コレラ

未だ火の手は止まぬ

既報猛烈な勢いで火の手を揚げて居る石城郡内の豚コレラの罹病斃死者の数は實に四百七十頭に達し未だ終熄期に入らないが最も多数を占むる勿來町の百七十七頭を筆頭に各町村の斃死者は左の如くである

一七七頭(勿來)一一九頭



報豫氣天 今晩は北西の風 晴れたり曇つたり驟雨模様明日は北西の風曇

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話と齊唱(お話)大東京のお誕生(お話)東京市教育局長・藤井利譽・齊唱、東京市歌)東京市情和少年團
後七、三〇 講演(大東京實現記念)内務大臣男爲山本達雄・東京市長・永田秀太郎
後八、〇〇 長唄新曲「都

甲高上等兵が

拓務省移民に

参加して明日出發

平町久保町騎兵上等兵甲高三郎氏は今回拓務省移民として全國四百五十名の一員に選拔され明日午前八時四十五分平驛發列車にて渡滿する事となつたので平在郷軍人分會及び町役場では今夕午後六時よりマルトモホールに於いて盛大な送別會を催す事となつたが會費一圓である

藤原判事

の送別會

既報白河區裁判所監督判事に榮轉された元平支部豫審判事藤原學氏は來る七日頃出發する筈であるが明日午後七時よりマルトモホールに於いて法曹關係者一同にて送別會を催すと

北海道の

水害救済

平町で義捐金

平町にては北海道が本年數回の豪雨に見舞れて水害甚

所 前九、三〇(子供の時間) 童謡 平井英子 伴奏アルメリヤ三重奏團
前一〇、四〇 宗教講話 天龍寺管長 關清拙
前一〇、四〇 講演「負債調停法案に就て」司法省民事局長長島毅
前一一、一〇 謠曲講座 「謠の道しるべ」(三八)解説金春光太郎 實演今春榮次郎
後一〇、五〇 吹奏樂 陸軍戸山學校 指揮樂長伊藤隆一
後一、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戰試合狀況 法政對帝大」二回戦

後一、五〇 俚謠 安宅千代外
後二、二五 映畫物語 生駒雷遊
後三、〇〇 吹奏樂 海軍々樂隊 指揮福喜多鎮雄
後六、〇〇 童話「二つの窓」久留島武彦
後六、三〇 郷土玩具講座「郷土玩具の本質と概念」有坂與太郎
後七、三〇 落語「今戸焼」三升家小勝
後八、〇〇 清元「今様須磨寫繪」清元榮壽太夫外
後八、四〇 歌謡 唱歌澤相模三味線歌澤實右衛門
後九、〇〇 新内「明鳥夢泡雪」富士松加賀太夫外

教諭欠勤の際

ソロバン練習

平商業學校にては今迄係教

雑キん千枚

七十三の老婆が

誠心こめて寄附

石城郡神谷村字鎌田水野キ(七三)さんは老後の身を暇に明かして何等か公益の爲め盡し度いと三年前より自家のボロ切れで雑巾を作つて居つたが去る廿九日千枚の雑巾が出来上り是れを同村小學校に寄附したので同村ではこの奇特な老婆の話で専らである

平職業紹介所報告

回求人部
△自動車助手 十八才 尋卒 月三圓外仕着(内郷村某)
△女中 四十五才 無學 給料面談(大野村某)

△女中 三十五才 尋卒 給料面談(赤井村某)
△事務員 二十八才 商業 半退 給料面談(平町某)
△自動車女助手 十九才 高卒 給料面談(平町某)
△女中 四十五才 無學 給料面談(大野村某)

慕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

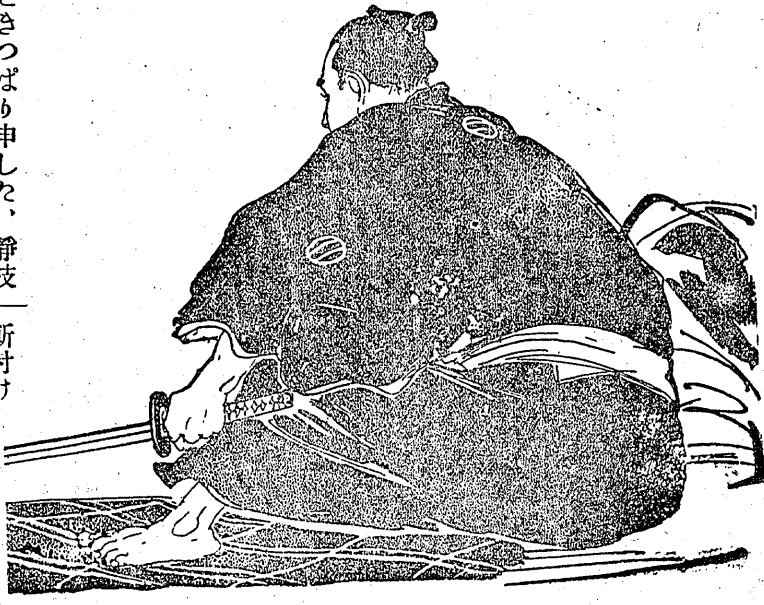
第百六十五席 女流劍客里見靜枝

靜枝の腕を試む

靜枝は秋山要介に對ひ
靜『長谷部の爲に父主計は
非業なる死をいたしました
ございませぬ、その怨みを
晴らさんものと千葉先生の
許にて劍術の修行をいたし
どうやら刀拔くことも覚え
ましてございませぬ、先生は
長谷部を隠匿ひ傷養生をさ
せし後此處を立退かせしと
か、確に其事は承りまして
ございませぬ、當時長谷部は
何處に忍び居りまするか、
どうぞ其居所を私にお申し
下さいませぬ』

要『如何にも俺は長谷部に
手當を加へて當地を去らし
めた、然し武士が一旦隠匿
ひし上は彼の居る所を告げ
ることはならぬ、誠に氣の
毒ではあれど此事は云へぬ
其許の手を以て彼の行方を
尋ね敵討をいたすが宜しい
長谷部の身の大事と知つて
は其行方を明すことはなら
ぬ』

と申した時に千葉先生が
周『秋山氏一旦隠匿ひし者
なれば彼の行方を明さねば
武士の意氣地として尤もに
は存するがこれなる靜枝は
亡父の仇を討たん爲に女性
の身に拙者に就き劍法を



ときつばり申した、靜枝
はこれを開きサツと顔色を
變へ
靜『是程までにお願ひ致す
とも長谷部の忍び居る處を
知らせることはなりませぬ
か』

要『エ、くどい、この秋山
でありながら男子も及ばぬ
要『後世畏るべし、イヤ女
笑つたが
靜枝は初めて要介の意中

の命ある内は彼の行衛を明
す事はならぬ、俺の死した
後にこれに居る五郎兵衛に
問へ』
靜『秋山先生には御本性に
て仰られませぬか』
要『何だ、この秋山を狂人
と見て居るか、今一言申さ
ば女たりとも免さぬぞ』
左の手にてズイと刀を引
寄せる、靜枝は之を見て
靜『頑固なるを以て武士と
は申しませぬ、悪人と知り
ながらこれを庇護なさるは
武士道に背きし事と存じま
する』
要『エイ申すな』
とサツと引抜き正面から

その腕前、拙者の一刀を交
したその技は正しく免許以
上である、それならば敵を
討つ事もなるであらう、先
刻の無禮を申したは其許の
腕を試みる爲流石千葉氏の
仕込み敬服致した、なア五
郎兵衛女には惜しいものだ
ナ』
五『びつくりいたしました
眞二つになつたかと存じま
したか』
要『俺の抜打を避けたはる
らい、靜枝どの長谷部は武
州寄居の俠客虎五郎の許に
居る』
聞いて靜枝は喜びました
時に秋山が

を知らしました、千葉先生も
秋山の厚意を謝す、是から
要介は五郎兵衛に申付けて
酒肴を出して千葉先生を待
遇したが此時秋山は千葉先
生より贈られた菓子折をそ
れへ出し
要『五郎兵衛、この折の中
にどういふ者が入つて居る
か、分るか心を盡した千葉
氏の贈り物只の菓子ではあ
るまい』
と申しました。

要『長谷部これへ參つた時
に曲者なりと存じ居つた、
然し里見殿の門人又其遺族
にて復讐の望みを抱き居る
者もあらう、さすればそれ
まで傳藏を世に置かねばな
らぬと存じ手當を加へ虎五
郎の許へ送り込んだ、彼は
かゝる秘計のあるとは知ら
ず虎五郎の許に今日も食客
致し居る、早々彼の地に參
り御尊父の怨みを晴らし、
其靈魂を慰められるやう又
虎五郎は俠客として其許がお
出でになれば必ず力を添へ
るであらう、然し長谷部は
技は出来てゐる、御油断な
されるな、かゝる事を知ら
ぬ其許とて嘆かしこの要介
の傍若無人の振舞に驚き居
つた事でござらう、拙者は
放蕩者ではあれど武士道は
辨へ居る、悪人に助成して
孝女を苦しめて快よしとす
るものでもござらぬ』
靜枝は初めて要介の意中

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

盛花
自入
臨時講習會
師 先崎曠山先生
來十月二日(日曜)
午前九時ヨリ午後三時マデ
平町南町看護婦會清野キヨ氏方
一、場 所
一、講 習 要 目
イ、華道ノ濫觴 ロ、華道眞理
講 話 ハ、立華説明 ニ、投入
ホ、生花 ヘ、盛花等ノ圖解
ト、直眞型 チ、半傾斜型類
リ、二ツ眞型類 ヌ、投入類
ル、自然本位 ヲ、水草本位類
一、會 費 金壹圓也
當日開會前會計ニ納付ノコト
一、準 備
1、花材料ハ本會ニ於テ用意
シテ置キマス
2、材料代ハ別ニ申受ケマス
3、手帳、鉛筆又ハ萬年筆、欵
花器御持參下サイ(花器
ハ隋圓形ノ水盤ノコト)

新製品
コーヒー通の待望せる
挽立コーヒーの快味
四半卦罐入 〇、三五
半卦 〇、六五

コーヒー發賣
グアテマラ
ジャマカ
ヤバカ
コーヒー三割五分二種配合
四割五分
速席挽立てを差上げます
大勝園コーヒー部
電話三九六番

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

上田外科醫院
平町南町
電話二一九番

藤沼醫院
平町南町
電話五〇七番